

氏名(本籍) 小倉暢之 (島根県)
 学位の種類 学術博士
 学位記番号 論博美第1号
 学位授与年月日 昭和63年10月13日
 学位論文等題目 東西アフリカ近代建築の気候への適応過程に関する研究
 論文等審査委員

| | | | | |
|------|--------|-------|----|--------|
| (主査) | 東京芸術大学 | 美術学部 | 教授 | 前野 巖 |
| (副査) | 〃 | 〃 | 〃 | 温品 鳳治 |
| (〃) | 〃 | 〃 | 〃 | 藤木 忠善 |
| (〃) | 〃 | 〃 | 〃 | 武藤 三千夫 |
| (〃) | 日本大学 | 生産工学部 | 教授 | 山口 廣 |
| (〃) | 早稲田大学 | 理工学部 | 教授 | 尾島 俊雄 |

(論文の内容の要旨)

本論文は「東西アフリカ近代建築の気候への適応過程に関する研究」と題し、「序」と本文6章及び「結語」から構成されている。「序」では本研究の目的、熱帯性気候の条件、研究の対象地域、東西アフリカにおける近代建築の定義、対象とする建築家、及び既往関連研究について述べている。

第1章「近代建築導入以前の社会的背景」では、東西アフリカの英国植民地開発政策の内容を分析考察している。その結果、東西アフリカ近代建築導入の前段として、英国植民地開発福祉法とその基金、及び現地人に対する英化教育が大きく関わっていたことを明らかにした。

第2章「近代建築導入前後の建築的背景」では、英国のアフリカ交易と入植者の建築状況、現地の建築技術と素材の関係を考察し、併せて植民地統治者の入植者に対する居住水準向上への努力が如何なるものであったかを明らかにした。

第3章「パイオニア」では、東西アフリカ近代建築の展開過程と熱帯気候への建築の適応の在り方を分析。その中から先駆的役割を果たした5人の建築家の活動を評価し、これら建築家の熱帯建築に対する設計理念と作風における同一性と差異について明らかにした。

第4章「熱帯気候との取り組み」では、英国建築研究

所熱帯建築課の組織的な熱帯建築研究の実態を明らかにした。さらにその研究成果(特に英国建築研究所熱帯建築課長ジョージ・アトキンソンの熱帯建築に関する提言)が熱帯で活躍した建築家に如何に影響を及ぼしたかを明らかにした。

第5章「適応に関する設計手法」では、第4章で明らかにされた研究成果が、第3章で評価された先駆的建築家の熱帯建築設計の中で、具体的に如何に適応されたかその具体的手法を明らかにした。

第6章「東西アフリカの気候への適応が建築界に及ぼした影響」では、ヨーロッパのCIAM(近代建築国際会議)に結集された近代建築の設計手法が東西アフリカの熱帯的気象条件下で如何なる状況にあったかを多くの文献から分析している。その結果、第4章に論じた東西アフリカの熱帯気象条件に対応する合理的設計計画の追求が、英国を始めとするヨーロッパ先進諸国の模倣であった建築基準法を見直す大きな原動力となったことを明らかにした。また、第4章で明らかにした熱帯建築研究の成果が1950年代の英国の建築教育に与えた影響についても明らかにしている。特に、1953年3月、ロンドン大学で開催された熱帯建築会議が熱帯建築教育の切っ掛けとなったことを高く評価している。

「結語」では、各章で論じた成果を要約し、中でも、

今日の東西アフリカ熱帯建築の設計手法、法規、教育の基礎を築いた英国建築研究所熱帯建築課長ジョージ・アトキンスンの果たした役割を高く評価している。